

千秀だより

横浜市立千秀小学校

3月号

平成30年(2018)3月1日



子どもたちの成長を支えてくださったすべての方に感謝！

校長 市川 幸男

先日、いつものように校内を巡っていましたが、6年生の教室でふと足が止まりました。その教室には、他の学年の部屋には見られないものが黒板に掲示してあったからです。その掲示物には「卒業まで〇〇日」と書いてありました。日一日とその数を減じたカードが横並びに掲示されています。日直さんが担当されているのかは不明ですが、カードを書き込むとき、その子の心の中にどんな思いが去来しているのか、とっても興味を引かれました。近づいてみると残り日数を表す数字の下に、いくつかのコメントが添えられていました。

「残り少ないけど、よろしくね。」
「あと少しで卒業です。最後まで仲良く、そして協力して最高の思い出をつくろう。」

どのコメントも素晴らしい6年間を送ってきたと感じさせてくれるというのは、指導者の身勝手な思いでしょうか。信じ合い助け合える仲間をもつこと、最高の思い出が胸に刻まれていること、それらは卒業していく彼ら彼女らにとってかけがえのない宝物となることでしょう。私はこの黒板の掲示を見て、こんな思いをもって卒業の日を迎えてくれてありがとうと、子どもたちに感謝する心でいっぱいになりました。同時に、卒業という大きな目標を目前にして、新たに始まる中学校生活への希望や期待に胸を膨らましている子どもたちに。小学校で身につけた頑張る心や友達を思いやる心、集団生活のルール等々、6年間で学んだことを生かして、立派な中学生になって欲しいと、心からエールを送りたいと思いました。

一方、卒業は6年生に限ったものではありません。1年生から5年生もそれぞれ今の学年の履修を終え進級します。言葉を換えれば、その学年を卒業するということでもあります。子どもたちには、この1年間を通して学習面や、生活面において、できるようになったことがたくさんあります。でも、千秀の子どもたちは理想が高いのか、子どもたち自身で、自分の成長の大きさに気付き、「こんなことができるようになった自分って、すごい。」というような自己肯定感に結びつかない傾向が見られます。これから学年末に向け、学校では、子どもたち一人ひとりの成長をしっかりと認め、褒め励まし、次の学年への学びと心の成長につなげていきたいとの願いのもと、学年のまとめをしっかりと進めて参ります。保護者の皆様におかれましても、お子様が学習面だけでなく、様々なことで成長したことを認めていただき、自信をもって次の学年に進級できるようご支援いただければと思います。

この1年間、保護者や地域の皆様の温かいご支援のもと、子どもたちはのびのびと、そして安全に学校生活を送ることができました。また、教職員も、保護者や地域の皆様のおかげで、子どもたちのために精一杯、教育活動に取り組むことができたと感じております。子どもたちの成長をともに支え、ともに喜んでくださる全ての人々に、心から感謝を申し上げます。

1年間、ありがとうございました。

